

# 「こおりやまの米」通信

平成27年6月1日

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761)

Vol.4 「除草・防除・中干し」

次回は6月下旬

\*最新号はJA各支店に備え付けてあります。



郡山市  
イメージキャラクター  
「がくとくん」

## 1 生育状況

播種盛期は4/17 (平年4/17) で平年並みでしたが、移植盛期は5/13 (平年5/16) と平年より3日早くなりました。育苗期間は気温が高い日が続く、ハウス内の気温が上昇したため徒長ぎみの苗が目立ちました。

移植後も天候が安定し、気温が平年より高く推移したため、活着が良く生育は概ね良好です。

## 2 天気予報 (東北地方)

### 【1か月 (5/23~6/22) 予報】 (5月21日 仙台管区气象台発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並の確率50%です。

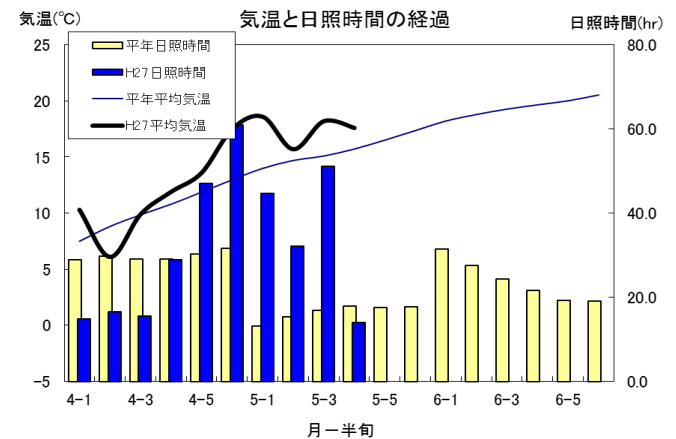
### 【3か月予報】 (5月25日 仙台管区气象台発表)

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。この期間の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 東北日本海側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。



## 3 水管理 「浅水で有効茎を早期に確保しましょう！」

○活着後は、浅水で水温の日較差を大きくし、有効茎を早期に確保しましょう。

○稲の生育が悪い場合は、土壌還元による根腐れで養分を吸収できない状態になっている恐れがあります。田んぼに入るとブクブクと泡が出たり、くさい臭いがしたりする時は、早めに落水し1~2日干してガスを抜きましょう。

## 4 雑草防除 「カメムシ発生の抑制には、確実な残草対策が有効です！」

### (1) 雑草が残った場合

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

**ヒエだけが残った場合** クリンチャー1キロ粒剤

※移植後7日~ヒエ4葉期まで1.0kg/10a散布、移植後25日~ヒエ5葉期まで1.5kg/10a散布

**広葉雑草だけが残った場合** バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) 3~4kg/10a 等

※移植後15~50日 (クログワイは移植後15~35日)

(バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) は、落水して散布して下さい。)

**ヒエも広葉雑草も残った場合**

ハイカット1キロ粒剤 ※移植後15日~ヒエ3.5葉期まで。 1.0kg/10a

フォローアップ1キロ粒剤 ※移植後20日~ヒエ5葉期まで。 1.0kg/10a

### (2) アオミドロ、表層はく離が出た場合

アオミドロや珪藻類の発生量が多いと、水温の上昇を妨げ、分げつ阻害をもたらす生育不良となる恐れがあります。

アオミドロや表層はく離は、代かき後や田植後の施肥によって発生することがありますが、発生した場合は、落水してアオミドロ等を田面に付着させてから再度入水するか、**モゲトン粒剤 (2~3kg/10a)** を散布してください。

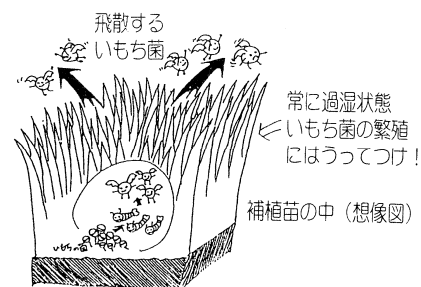
## 5 葉いもち防除 「葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です！」

### (1) 置き苗の処分

- 補植用の置き苗は葉いもちの発生源となってしまう。  
補植作業は5月末までに完了し、置き苗は水田やその周囲に  
放置しないようにしましょう。

### (2) 本田の粒剤防除

- 箱施薬剤を使用していない水田では、オリゼメート粒剤やコラトップ粒剤5を、いもち病の初発10日前～初発時（平坦部では6月20日頃、山間高冷地では6月25日頃まで）に散布しましょう。  
散布後7日間程度は落水せず、止水で管理してください。



## 6 害虫防除 「農薬を使用する場合は、周辺農作物への飛散（ドリフト）に注意しましょう！」

箱施薬剤を使用していない水田や使用していてもイネドロオイムシが多発した場合は、下記の殺虫剤を使用してください。

農薬名	本剤のみを使用する場合 (成分の総使用回数)	農薬成分の系統	蚕毒規制地域※
トレボン乳剤・トレボンEW	3回以内(3回以内)	ピレスロイド系	使えない
シクロパック粒剤	2回以内(2回以内)	ピレスロイド系	使える

※蚕毒規制地域・・・田村町、中田町、西田町、日和田町の一部が該当します。

注1シクロパックは、湛水深3～5cmで散布し、7日以上湛水状態を保ってください。

注2ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

## 7 中干し 「有効茎を確保したら、タイミングを逃さずに！」

- 1株当たり20本程度の分けつを確保したら、中干しを行い、無効茎を抑えてスッキリ型のイネを作りましょう。
- 6～7月は梅雨と重なり、例年雨や曇りの日が多くなります。タイミングを逃さず中干ししましょう。
- 溝切り(4～5m間隔)を併せて行い、水の掛け引きを容易に行なえるようにしましょう。

## 8 カリ追肥 「稲体を強化していもち病に備えましょう！」

稲体の強化などを目的としてカリ資材を追肥する場合は、出穂40日前(6月下旬～7月上旬頃)に散布してください。

ケイ酸カリ(出穂40日前) 20kg/10a: でき過ぎた田、コシヒカリに有効  
塩化カリ(出穂40日前) 6.7kg/10a: 一般田

## 9 放射性セシウムの吸収抑制対策

- 塩化カリの基肥施用を行い、必要に応じてケイ酸カリ等のカリ資材の追肥を行っても、食味や品質に影響はありません。
- 吸収抑制対策のために配布している塩化カリ20kg/10aは、最も吸収抑制効果の高い基肥での施用を基本としています。万が一、基肥で十分な量を施用していない場合は、速やかに全量散布してください。

この資料は、平成27年5月13日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

**※農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)※**  
**・農薬はラベルの表示に従い、周辺環境へ配慮し適切に使用しましょう!**

**※農作業事故多発警報が発令しました! 余裕を持って作業しましょう!※**  
 5/10～16の間に郡山市で起こった田植機の転落事故をはじめ、県内で4件の農作業死亡事故が発生しました。今後も農業機械を利用する上で、農作業時には以下の点に注意しましょう。

- 機械作業中断、点検の際にはエンジンを停める
- 機械運転時、操作時にはシートベルトや保護具を着用する
- 安全フレーム等のついたトラクターを使用する